



翔

2006 October

No.182

百万石蝶談会

白山市大日スキー場周辺でヒメキマダラセセリを採集・目撃

大 脇 淳

金沢市犀川上流部の低標高地で記録したヒメキマダラセセリ（大脇、2006）を、白山市大日スキー場周辺で観察したので報告する。

2006年7月14日 石川県白山市（旧鳥越村）大日スキー場付近 1♂目撃 大脇 淳

2006年7月25日 石川県白山市（旧鳥越村）大日スキー場付近 1♀採集 大脇 淳

7月14日の目撃場所は、大日スキー場から五十谷へ行く途中にある細く暗いトンネルのスキー場側、7月25日の採集場所はトンネルの五十谷側である。両方とも、ヒヨドリバナへ吸蜜に来ていた。今回の観察地点も標高380m程度で、これまで記録されていた場所に比べ低い、記録が集中している白山からは比較的近い。本種は、これまで石川県では標高600m以上の地域でしか記録されていなかったが、2006年は低標高地で相次いで観察されている。2006年は当たり年なのだろうか？

《 参考文献 》

大脇 淳(2006)金沢市犀川上流でヒメキマダラセセリを観察. 翔(181):1.

《おおわき あつし 〒920-0942 金沢市小立野1-23-20》

ヒメキマダラセセリを金沢市犀川ダムで観察

松 井 正 人

金沢市日尾で観察されたヒメキマダラセセリ（大脇、2006）を、その上流の犀川ダム周辺において観察したので報告する。

2006年7月8日 石川県金沢市犀川ダム 3♂目撃 松井正人

本種は、ダム湖畔の木陰に咲くオカトラノオに飛来していた。花を回りながら飛翔、吸蜜を繰り返し、時に2♂による追尾行動も見られた。

《 参考文献 》

大脇 淳(2006)金沢市犀川上流でヒメキマダラセセリを観察. 翔(181):1.

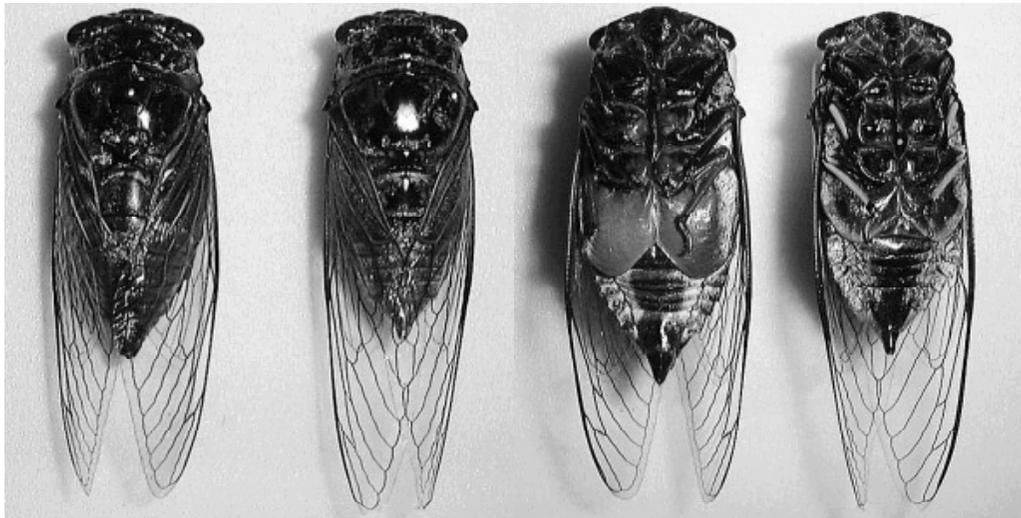
《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2006年石川県金沢市におけるスジアカクマゼミの現状

松井 正人

スジアカクマゼミ (*Cryptotympana atrata*) は、2001年に日本で初めて石川県金沢市で発見され、発生していることが確認された。黒い体に透明の翅を持ち、クマゼミに似ているが、腹面を見ると、腹弁の色や形、足の色に、はっきりした違いがある。分布は、日本、朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ半島北部と広いが、日本国内では、2006年現在、石川県金沢市が唯一の生息地として知られている。鳴き声は、クマゼミとはまったく異なり、エゾゼミに良く似た「ギー」という単調なもので合唱性があり、1頭が鳴き始めると、その付近にいるオスが連れ鳴きを始め大合唱となる。この合唱は、20~40秒程で止んだあと繰り返えされる。

図-1. クマゼミ と スジアカクマゼミ



クマゼミの背面

スジアカクマゼミの背面

クマゼミの腹面

スジアカクマゼミの腹面

2001年の発見当時、スジアカクマゼミの声は、金沢市八田町にある競馬場を含む湖南運動公園や柳瀬川をはさんだ対岸の柳瀬川つつみ公園で、大合唱が聞かれるに止まっていたが、2002年になって、大合唱が聞かれる区域から1 km程離れた場所で、単独で鳴いているのが聞かれるようになり、2006年までには、図-2のとおり、大合唱が聞かれる区域を取り囲む概ね1 kmの範囲で、一度に1頭あるいは数頭の声が、度々聞かれるようになってきた。しかし、2001年に大合唱が聞かれた湖南運動公園や柳瀬川つつみ公園では、大合唱が継続して鳴り響いているのに対し、この概ね1 kmの範囲で鳴いているのは単独ばかりで、合唱が聞かれるには至っていない。また、大合唱が聞かれる区域では、7月上旬から成虫が観察され始め、これらを取り囲む概ね1 kmの範囲では、7月下旬から観察され8月中旬に多くなっている。

羽化殻は、大合唱が聞かれる区域の湖南運動公園や柳瀬川つつみ公園から見つかるが、それ以外からは見つからない。柳瀬川つつみ公園で羽化殻が見つかるのは、太い大きなシダレヤナギで、毎年同じ木に集中している。地表から2m～3.5mの高さで見つかり、早いものは7月4日に見つかる。

2004年7月4日 金沢市大場つつみ公園 2幼4抜殻目撃 松井正人

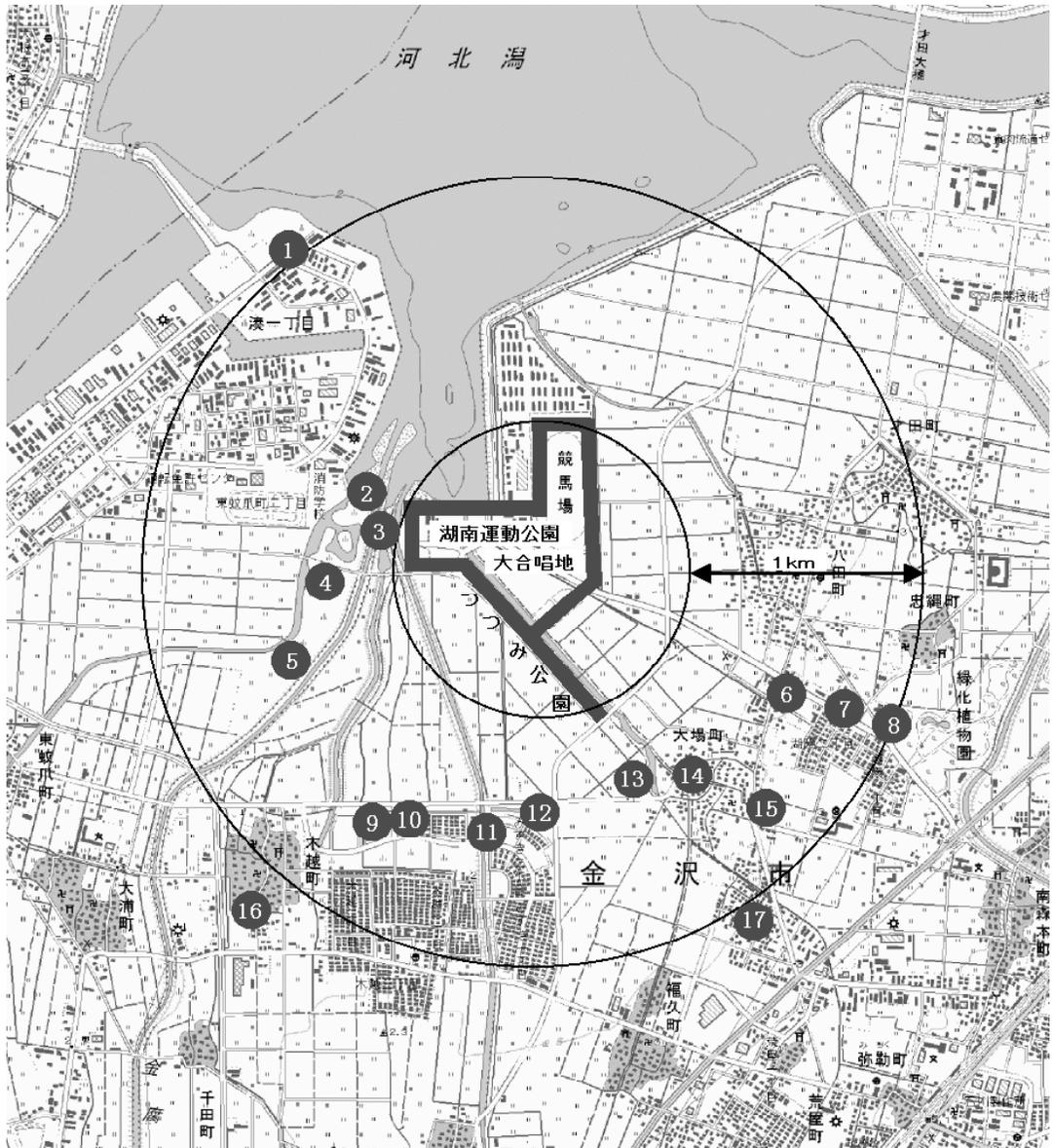
徳本・他(2002)は、2001年の状況を、湖南運動公園と柳瀬川つつみ公園を合わせた総面積40haほどにスジアカクマゼミが生息し、この中に成虫が羽化する発生地点があり、これら40haほどの敷地は、湖岸に広がる水田地帯の中に島状に存在するために、樹木がある周辺の集落からは水田によって隔てられ、集落内には広がっていないようだとしている。

2006年までの状況は、湖南運動公園と柳瀬川つつみ公園を合わせた総面積40haほどでは、継続してスジアカクマゼミが生息し、柳瀬川つつみ公園では成虫が毎年羽化している。そして、これら40haほどの敷地を取り囲む概ね1kmの範囲内で、少ないながらスジアカクマゼミは観察され出したが、これらは単独で鳴いていること、発生初期には観察されないこと、羽化殻が見つからないこと等から、湖南運動公園や柳瀬川つつみ公園の発生地から飛来した個体だと思われる。

表-1. 大合唱が聞かれる区域を取り囲む範囲で観察したスジアカクマゼミ

地番番号	観察日	観察場所(止まっていた樹木)	観察内容	観察者
7	2002年8月18日	金沢市八田ホーム	1♂目撃	松井正人
17	2002年8月15日	金沢市大場(民家の壁)	1♂目撃	松井正人
17	2004年8月28日	金沢市大場	声	松井正人
1	2005年8月16日	金沢市湊1丁目(シダレヤナギ)	声	松井正人
3	2005年8月2日	金沢市金腐川河口(ヤナギ)	声	松井正人
4	2005年8月16日	金沢市湖南水辺の郷(シダレヤナギ)	声	松井正人
17	2005年7月24日	金沢市大場	声	松井正人
2	2006年8月15日	金沢市金腐川河口(ヤナギ)	5♂目撃	松井正人
4	2006年8月15日	金沢市こなん水辺の郷(シダレヤナギ)	3♂目撃	松井正人
5	2006年8月15日	金沢市大宮川河畔(シダレヤナギ)	3♂目撃	松井正人
6	2006年8月15日	金沢市八田(キリ)	2♂目撃	松井正人
8	2006年8月12日	金沢市忠縄(シダレヤナギ)	2♂目撃	松井正人
9	2006年8月15日	金沢市瑞樹団地(ヤナギ)	1♂目撃	松井正人
10	2006年8月15日	金沢市瑞樹団地(シダレヤナギ、ハンノキ)	3♂目撃	松井正人
11	2006年8月12日	金沢市瑞樹団地(サクラ)	1♂目撃	松井正人
12	2006年8月12日	金沢市瑞樹団地(シダレヤナギ、アキニレ)	3♂目撃	松井正人
13	2006年8月15日	金沢市大場(シダレヤナギ、サクラ)	4♂2頭目撃	松井正人
14	2006年8月15日	金沢市大場	声	松井正人
15	2006年8月12日	金沢市大場(クロマツ)	2♂目撃	松井正人
16	2006年8月15日	金沢市木越(ケヤキ)	1♂目撃	松井正人

図-2. スジアカクマゼミの観察地



《 参考文献 》

- 大串龍一 (2005) 金沢市に出現したスジアカクマゼミのその後の動向. 昆虫と自然, 40(4):14-15.
- 徳本 洋・大串龍一・松井正人・富沢 章 (2001) 日本初記録のスジアカクマゼミ、金沢市八田地区に発生. とっくりばち(68):1-3.
- 徳本 洋・大串龍一・松井正人・富沢 章・林 和美 (2002) 日本で発見されたスジアカクマゼミ. CICADA, 16(4):57-66. 日本セミの会会報.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2005年アサギマダラ日記

松井正人

■4月16日 ようやくスナビキソウが顔を出す

待ちきれなくて、海岸でスナビキソウ生育の調査を進めていたが、ようやく砂の中から顔を出しているのを見つけた。風で砂が動く場所には、全く何も見られないが、他の植生で砂が飛ばされない場所には、連なってスナビキソウが顔を出していた。



■5月 8日 スナビキソウ咲き出す

各地の海岸で、ハマハタザオやハマエンドウに遅れてスナビキソウがポツポツと咲き出した。今は、ベニシジミやヤマトシジミしか飛んでいないが、アサギマダラの雄姿を夢見ながら、できるだけ多くのスナビキソウ生育地を見つけ出そう。



■5月21日 産卵調査は見付からず

どこの海岸もスナビキソウが花盛りで、しぶいような香りが漂っているが、アサギマダラの雄姿は無い。海岸では観察できないが、既に飛来し産卵しているアサギマダラがいないかと、産卵調査を行うが、卵は観察できなかった。

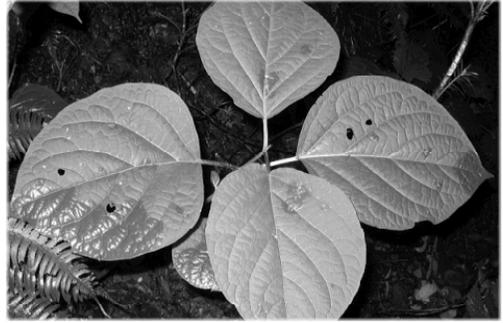
■5月25日 ようやくアサギマダラを観察

羽咋郡宝達志水町から同郡志賀町にかけて、スナビキソウが生育する海岸を調査する。朝6時半から調査を開始したが、気温が低かったため7時半まで待機し調査を再スタートする。午前中に全海岸の調査を終え、ようやく7頭のアサギマダラを観察。午後に、再び全海岸を調査するが、全く観察できなかった。



■6月12日 産卵も始まる

5月25日以降、アサギマダラは毎日観察されるようになったので、産卵調査に出かける。産卵は最近始まったようで、幼虫は全て初齢。既に捕食されたものもいるようで、幼虫がない円痕もあった。ツルガシワとオオカモメヅルから卵と幼虫を多数観察する。



初齢幼虫の円い食痕(円痕)のついたツルガシワ

■6月18日 北上個体を再捕獲

輪島市在住の日吉宏朗氏の情報から、珠洲市の海岸へ初調査に出かける。輪島市曾々木を通り過ぎ、6時20分になって、珠洲市清水から調査をスタート。1箇所目、2箇所目はスナビキソウしか発見できず、3箇所目の馬縹海岸で、ようやく3♂のアサギマダラにマークする。4箇所目の高屋海岸では、4♂にマークし、この内の1頭が大分県姫島から北上飛来した「ヒメ」マークだった。



「ヒメ」マークを再捕獲した高屋海岸

5箇所目の川浦海岸では、4♂にマークできたが、この時点で8時30分を過ぎ、その後の海岸では、気温が上がってきたためかスナビキソウしか見つからなかった。

マーク内容：6/3 ヒメ SRS1498 性別：♂
 標識者：栗田 昌裕
 標識地：大分県東国東郡姫島村
 標識日：2005年6月4日 8:17

直線移動距離：659km
 再捕獲者：松井 正人
 再捕獲地：石川県珠洲市高屋海岸
 再捕獲日：2005年6月18日 7:36

■6月25日 幼虫多数を観察

梅雨なのに雨が全く降らず、今日の気温も30度を軽く越している。雨が降らない分、アサギマダラの成長は順調で、地元産1化は多いかもしれない。ツルガシワからは、齢を重ねた幼虫が多く見つかり、イケマやオオカモメヅルからは、卵や初齢中齢幼虫が見つかった。



初齢幼虫の円い食痕のついたイケマ

■7月16日 医王山、真夏の早朝マーキングスタート

医王山北方稜線の富山県南砺市側で、夏のマーキングをスタート。朝6時10分、標高700mの医王権現付近でアサギマダラが飛び出し、ひとすくいで6頭を捕獲。ここから、夕霧峠までの約2 kmに、マーキングポイントが何力所かある。曇りの天気が雨となり、傘を差してマーキングするが、効率は悪い。9時頃には雨が止んだものの、10時頃に日差しが出てくると暑くなり、アサギマダラはいなくなった。約4時間で、46頭にマークする。

■9月10日 宝達山で再捕獲に立ち会う

今日の宝達山は、和やかなマーキング日和。交尾飛翔中のアサギマダラに、まわりつくアサギマダラがいたり、地表際、笹の間を縫って3頭が電車ごっこでもしているようにゾロゾロと連れだつて飛んだり、アサギマダラも遊んでいるような日だった。そんな中、富山県氷見市からマーキングに来ていた松木さんが、マーク個体を再捕獲する。「松木さん、おめでとうございます」これで、松木さんもマーキングのとりこですね。



マーク内容：あづみの1 7/21 性別：♂
 標識者：生田 明子
 標識地：長野県堀金村あづみの公園
 標識日：2005年7月21日

直線移動距離：110km
 再捕獲者：松木 隆也
 再捕獲地：石川県宝達志水町宝達山
 再捕獲日：2005年9月10日

■9月12日 アサギマダラの匂い付け行動を観察

今日は、9時から宝達小学校のマーキング会。アサギマダラの様子を見に、30分早めに現地に到着すると、うれしい事にたくさん飛んでいる。写真を撮ろうと、止まっている個体に近づくと、腹部を「つ」の字に曲げている。匂い付け行動の真っ最中だ。羽を開閉する度に、性標で挟み込んでいるヘアーペンシルが見え隠れする。夢中で写真を撮っていると、子供達を載せたマイクロバスが到着した。



羽を開閉しながらヘアーペンシルと性標をすり合わせる♂

■9月17日 アサギマダラの飛来が最大、マーキングも最高調

今日の宝達山は、アサギマダラで大にぎわい。次から次へと新しい個体が滑るように飛んで来る。9時の気温が20度で、緩やかに上昇し11時を過ぎた頃に最高気温の23度となり、最高のコンディション。愛知県岡崎市から宇野さんもマーキングに訪れるなど、24人のマーカーが236頭にマークした。



宝達山のマーキング基地になっている標高570mに建つ「山の龍宮城」。乙姫が、マーキングのイロハから教えてくれ、ネットやペン、記録用紙など、マーキングセットの無料貸し出しもしている。喫茶や軽食も楽しめ、日本海を一望できるデッキに立てば、かたわらをアサギマダラがすり抜ける。

ここには、2台のライブカメラがセットされ、宝達志水町のHPで見ることができる。

■営業時間 9時半～17時(水曜定休日)

<http://www.hodatsushimizujp/webcam/index.html>

■9月29日 宝達山からアサギが消えた

宝達山は寒くなった。9時半の気温が15度で、11時には17度まで上昇したものの、これ以上にならない。観察できたアサギマダラは、全部で3頭。宝達山のアサギマダラは、行ってしまった。

■10月1日 石川県の南端で最後のマーキング

宝達山より標高が100m程低い加賀市刈安山に、勝負をかける。しかし、頂上には花もなくアサギマダラもいない。登って来る途中の林道沿いに、アザミやヒヨドリバナがあったので、標高300m～440m付近の林道沿いでマーキングする。意外にも、アサギマダラが多く、変わったところでノコンギク、ミゾソバ、サラシナショウマ、クサボタンの花に止まっている個体があった。そして驚くことに、最後のマーキングにして、群馬県から飛来した個体を再捕獲してしまった。



マーク内容：マル200 98YT 性別：♂
 標識者：高橋 洋一
 標識地：群馬県利根郡片品村小川の丸沼
 標識日：2005年9月8日

直線移動距離：270km
 再捕獲者：松井 正人
 再捕獲地：石川県加賀市刈安山
 再捕獲日：2005年10月1日 10:06

会員の動き・しゃばの動き

■石川県のクロシジミは今いずこ

連敗を重ねながらも、県内のクロシジミに挑み続けている者達がいる。かつて採集されたクロシジミ、今もどこかに生息し続けていると夢みながら、今日こそはと、探し続けているが、勝利の女神は、いつ微笑むのだろうか。

■7月下旬は土砂降りばかり

7月下旬は、警報級の土砂降りが続き、晴れても前線が下がっているため、真夏にはふさわしくない涼しい日が続いた。

■夕霧峠で朝食を

7月の医王山夕霧峠周辺には、アサギマダラが飛び交い、早朝の涼しい時間帯に多い。真夏の蒸し暑さを避け、さわやかな日差しの中でアサギマダラを眺めながら、朝食を食べようと計画していたが、今年は天候不順で雨ばかり。それも土砂降りばかり。

■7月30日中西重雄氏急逝

蝶談会の大黒柱、中西重雄氏が心臓麻痺で急逝されました。58歳でした。頭を巡るのは、採集行や採集パーティーの楽しかった事ばかり。まだまだいっぱい楽しむはずだったのに。謹んでご冥福をお祈りするとともに、深い悲しみのご家族に哀悼の意を表したい。

■ムラサキツバメが今年も発生

昨年大発生した場所で探していたが見つからず、強烈な寒波で越冬できなかったのかと思われたが、8月になってようやく観察された。これから、すさまじいスピードで各地に広がると思われる。

■松葉杖の松井氏

さあ、「アサギのマーキングシーズンだ」との声が聞こえてきた8月23日、竹の切り株を踏んでしまった松井氏は、靱帯を切断。右足首をギブスで固定されては身動きできず、泣くに泣けない松井氏であった。

■白水 隆の志、今ここによみがえる

何ともすごいコピーだが、白水先生が企画し書き残した原稿を元に、学習研究社が白水隆著「日本産蝶類標準図鑑」を作り上げた。3500点の標本がカラー図示され、ほとんどの亜種や主要な地理的変異は見ることができる。A4判336頁、7,350円。

■未来の虫屋のための入門書

若い虫屋が少なくなり、未来の虫屋を育てようと、虫社が昆虫採集の入門書「初めての昆虫採集」を作った。巻頭には、摩訶不思議な世界の虫たちが並び、不可思議な魅惑の世界へといざなっている。1,380円。

■8月26日中西重雄氏を偲ぶ会

北陸の秘密兵器と恐れられた中西氏、次々とブームを巻き起こした中西氏、例会準備を一手に引き受けてきた中西氏、「みんなで楽しく」をモットーにしてきた中西氏、ありし日の中西氏との思い出話を語り合っただけで悲しみに区切りをつけた。

■日光白根山丸沼で「レオ」マーク

夏休みに、おじいちゃんと宝達山にやってきた5歳の太田怜苑君、記念にと「レオ」マークのアサギマダラ1頭を放蝶。この「レオ」マークが、24日後の8月29日に、230km離れた日光白根山の丸沼で再捕獲された。

■「ヒメ」マーク4頭目の再捕獲

またまた嬉しい再捕獲ニュースが飛び込んできた。今年6月に、輪島の海岸に次々と飛来した「ヒメ」マークが、旧尾口村の荒谷で8月31日に再捕獲された。「ヒメ」は大分県姫島で、捕獲者は中村明男氏。

■エルタテハが観察されている

石川県のエルタテハは、まだまだ珍しく、今までに30頭程しか記録されていないが、今年は久々の当たり年のようで、白山市で2頭が記録された。

■舳倉島のキベリタテハ

2000年の8月に輪島の鉢伏山でキベリタテハが目撃された。8月頃は、白山に連なる標高1500m以上の記録しかなく、特異な記録だったが、今度は舳倉島で撮影された。佐渡にもいないキベリタテハ、いったいどこから飛来したのだろうか。

■9月9日は徳島でルーミスジミ

時期を合わせた四国への出張。ルーミス、サツマ、ヤクルリがゲットできる筈だった。

しかし、仕事が終わる頃から、むなしい雨。レンタカーや宿泊先をキャンセルし、医王山で憂さを晴らす細沼氏だった。

■ 例会の記録 ■

8月3日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、浅地氏のクワガタ発酵マット作成室を見学しながら、氏から説明を受ける。木チップにふすまを交ぜ、発酵菌を活発化するために容器を密閉して温度を上げ、好気性菌の活発化を促すためにポンプで空気を送る。発酵が終わると温度が下がるので、更に・・・ここからは企業秘密とか。

その他の話題は、連敗続くクロシジミ、ムラサキツバメはこれからか、虫に目覚めたのは2001年、赤いヤコンは少ない、市街地のコシボソヤンマ、姫川で採集したヒメビロウド、などなど。

参加は、浅地、松井、吉岡、井村、長田、大脇の6人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

大脇 淳：白山市大日スキー場周辺でヒメキマダラセセリを採集・目撃	… 1
松井正人：ヒメキマダラセセリを金沢市犀川ダムで観察	… 1
松井正人：2006年石川県金沢市におけるスジアカクマゼミの現状	… 2
松井正人：2005年アサギマダラ日記	… 5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	… 9

翔 182号

Tobu 2006年10月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



撮影/松井 正人



撮影/小嶋 英典

撮影/小嶋 英典



表紙/小嶋 英典